

各位

平成23年11月21日

特定非営利活動法人生産システム実践モデル研究機構

代表理事 入江 安孝

『第八十七回PM研研究会のご案内』

共催：日本生産管理学会関西支部研究会

拝啓 皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。立冬も過ぎ朝夕秋冷を加える季節となりましたが、皆様方には相変わらずお元気で過ごしのことと存じます。

今回は開催テーマとして「中国と日本のスケジューリングの現状を見る」を取り上げました。アスプローバ株式会社藤井賢一郎氏には、同社が中国進出当初の一昨年10月末時点で、当時事業転換期にあった中国市場についての講演を戴きました。今回は本年度の円の高騰、東日本大震災によるなど思わぬ出来ごとによる変化に追従で中国での日系製造業はどう変化して来ているのか、その後の動きをお話し戴きます。そして日本での事例としては、封筒等製品のTopメーカーであり別製品の割合が殆どである株式会社イムラ封筒のスケジューラ導入について、導入ご担当の情報システム事業部藤岡陽一氏からお話を伺うこととなりました。最後に大学教育の場で生産管理の講義にスケジューラを採り上げておられる清水秀樹氏より、『なぜ「教材として Asprova」を使用しているのか、学生にスケジューラを核として教えるはたして生産管理全般が理解し得るものなのか』をお話し戴きます。

この様にスケジューラについての多方面について話題とし、タイミング良くトレンドをも包括的に含む研究会となりましたので、ぜひ皆様にはご都合をつけられて参加下さる様ご案内申し上げます。 敬具

記

(Ⅰ)日時：12月21日(水)13時30分から17時30分 13時10分より受付を開始致します。

(Ⅱ)会場：関西学院大学梅田キャンパス10階1003教室

大阪市北区茶屋町 19-19 アプローズタワー10階→ [http://www.kwansei.ac.jp/kg\\_hub/access/index.html](http://www.kwansei.ac.jp/kg_hub/access/index.html)

☆阪急「梅田駅」茶屋町口改札口より北へ徒歩5分。JR「大阪駅」御堂筋出口から徒歩 10 分、地下鉄御堂筋線「梅田駅」から徒歩 7 分

(Ⅲ)開催テーマ：「中国と日本のスケジューリングの現状を見る」

講演1. 演題「世界工場から世界市場へ 変わりゆく日系製造業の中国工場」 13時30分～15時00分

講師：派程(上海)軟件科技有限公司 総経理 藤井 賢一郎氏

☆中国市場にて日系企業をサポートして参りましたが、まずは昨今の急激な変化についてお話をさせていただきます。また前回講演からの続きの報告ともなります。

講演2. 演題「株式会社イムラ封筒のスケジューラ導入について」 15時10分～16時10分

講師：株式会社イムラ封筒 情報システム事業部 藤岡 陽一氏

☆(株)イムラ封筒では現在4工場と2営業所にスケジューラを導入しておりますが、今日までのスケジューラ導入経緯と導入効果や課題などをご紹介致します。

講演3. 演題「生産管理教材としての Asprova について」 16時20分～17時20分

講師：株式会社ヒット開発研究所 清水秀樹氏（大阪成蹊大学非常勤講師）

☆製造業の生産管理システム導入支援に長年携わり、現在はERP「SAP R/3」の導入支援(東洋ビジネスエンジニアリング株式会社の契約コンサルタント)を中心に活躍されている。また、大学では生産管理システムの授業においてスケジューラの Asprova を教材としています。この授業に関するお話があります。

(Ⅳ)PM研研究会費として、今回は1000円徴収致します。

今回会場費を納入された方は本年度特例として、来年1月度開催予定の総会で正式会員として取扱います。

(V) 懇親会会費: 4,000 円で組合せたPM研領収書を発行いたします。

懇親会会場: 阪急かつば横丁漁師居酒屋「海幸丸 百番」 Tel: 06-6373-1482 18時から2時間予定

☆10月も同店で開催、皆様に好評だったお店です。特に今回は忘年会を兼ねた会合、冬ならでの鍋料理に呑み放題付きを設営致しました。☆お店は阪急梅田駅高架下の駅迄の道順にあり、事務局先導にてゆくりと参ります。

(VI) **参加申込み:** (PM研HP申込みか、このメールで返信乞) ☆**懇親会会場の予約の都合があり、12月16日(金)迄に申込をお願いします。** ①名前: ②所属: ③メールアドレス: ④懇親会: 参加・不参加 ⑤領収書発行時希望: 準備上あ) ~ え) を必ず記載。あ) 纏めて領収書 い) 参加費領収書一枚。う) 懇親会は別領収書、計二枚。え) 領収書不要  
**【講演ご参考資料】**

1. 『第七十二回PM研研究会』 2009年10月28日開催: 関学梅田キャンパスにて藤井氏から講演を戴いております。

演題: 『中国日系製造業の国内販売への取り組み「物づくり」から「売りづくり」への転換』 ~ 生産計画からみた場合の

中国における日系製造業の事業転換 ~ アスプローバ株式会社副社長 上海法人総経理 藤井賢一郎氏

☆(議事録から講演のまとめを見ます) ①中国政府の4兆元(57兆円)の景気対策による内需拡大でボリュームゾーンがあります。

②『売れる国』で『売れる物』を作ること。→世界戦略のひとつであり、工場の見える化が必須となる。③ソフトウェア製造工場での生き残りを図る→低価格、高品質システムを世界へ供給する。弊社導入事例から見ますと効果のポイントなどは次でしょうか①コントロールされていないので稼働すれば効果は大きい。②販売・購買双方で納期が重要な市場なので、生産スケジューラが必要となる。③日本の4倍の速度で伸びる市場であること。④工場は日本の10倍あり、そのなかでの競争があること。とにかく伸びが早いし、大きい国です。▽詳細は第72回研究会議事録参照下さい。アスプローバ株式会社HPは→ <http://www.asprova.jp/companyinfo/>

2. 株式会社 イムラ封筒 先ずはHPご覧ください。 → <http://www.imura.co.jp/index.htm>

☆Top頁からクリックして次をぜひご覧下さい。(9月17日に開催いたしました読売ブリッジサロンに関する情報を掲載しました。)\***動画・プレゼンテーション資料:** ここでは井村守宏社長が情報開示講演をされておられ、封筒等の事業でTopメーカーとして同社のビヘイビアが良く判ります。同社は「別製品の割合が高く、独自の製法の為自社開発の機械装置が多い。4つの統合マネジメントシステムと経営計画を融合させている」など40分の講演画像と資料です。◆当社の売上げの88%を占めるイムラ封筒の核である事業が**封筒事業**です。封筒はその種類は様々で、そこには多くのアイデアが詰め込まれています。当社が主力としているのが、オーダーメイドの封筒で同じ物はひとつとしてありませんしお客様が求めるあらゆるものをカタチにします。DM用の封筒では、開封してもらわなければ意味がありません、エンドユーザーにどう印象づけるか、開封してもらえるかを考え、さまざまな工夫をしています。封筒が楽しかったり、センスが良ければ中を開けて見ようとされるでしょう。封筒は、企業の印象を決定づける「顔」なのです。当社は、その企画提案力でお客様のニーズを的確に捉え、リピート率70%以上という高い信頼関係をお客様と築き上げています。■DMの全てを行うのが当社の**メーリングサービス事業**ですが、マーケティング、DMの企画から始まり封筒製造、顧客リスト管理、内容物の手配、封入、発送、リスポンスデータの分析など発送に関する全ての作業を一手に引き受けています。従来のサービスでは、顧客にDMを送る場合同一内容でしたが、インクジェットプリンタの導入等により顧客ごとに打ち出す内容を変えることが可能となり、顧客一人一人に合った内容を送ることが出来るようになりました。これらにより、これまで以上にお客様のニーズに合った提案をしています。(同社HPより要約いたしました。)

3. 講師: 株式会社ヒット開発研究所 清水秀樹氏 の下記の著作のご紹介を致します。

『基礎から学ぶ生産管理システムー製造業SEのための業務知識』 日経BP社刊

「☆生産管理システムの開発プロジェクトの成否は、基本プロセスを熟知したエンジニアが業務設計やシステム設計を行うかどうかにかかっています。☆顧客との打ち合わせの際は、対象業務における普遍的な業務プロセスである「基本プロセス」を最初に示し、その工場における個々のケースについて、基本プロセス上の変化の有無を検討することが重要です。」とし本書にて業務の本質を身に付けるようにとSEに呼びかけております。しかしこの本はエンドユーザーにとっても、全体として整理された業務知識の取得に有用だと思われます。更に言えば、システムの再構築・ERPの導入時などにおいて担当は謙虚にこの本を読み返すことが肝要と考えます、今や大半の方が現場を知らないで設計し開発を行っているからです。(事務局独白)

以上